

ゆらい

海のなかにも森があります。海藻でできた森です。
「藻場(もば)」と呼ばれるその森は、
時には隠れ家として、時には遊び場として、
また時には産卵の場所として、魚、ウミガメ、エビやカニなどの
多種多様な生きものを養い、かつ海そのものの水質をも浄化する、
生態系の中で非常に重要な場所です。

今回、お話を頂いた時、
私の頭に浮かんだのはそんな「藻場」のイメージでした。
ここがあなたの、「うみのもり」でありますように。

(文・大島 健夫 詩人)

なりたち

人生は出会いとタイミングだと思います。
限られた人生という時間の中で無数の人との出会いがあり、
そのほとんどが何ごともなく別れては忘れていきます。
しかし、何かしらのはずみで心の中にある風鈴が揺れて
かすかな音を立てることがあります。

障害者文化芸術活動推進法が

国会で成立したのは2018年6月です。

それを受けて都道府県が障害者文化芸術を進めていくための
計画や支援センターを設置していくことになりました。

日本の障害者福祉は2006年に障害者自立支援法が
施行されてから、この13年で3倍以上にも予算は増えました。
まだ不十分とはいえ、福祉サービスは以前とは比べられないほど
充実してきたと言えます。権利擁護の面でも虐待防止法や
差別解消法の施行などもあって少しずつ整備されてきました。

ただ、福祉サービスがあって権利が守られていればいいという
ことではありません。社会に何らかの形で関わり、働くことで
役割を得たり、家族や恋人との生活で充足感を得たりするのです。
趣味や芸術を楽しみ、創作活動の中に新しい自分を発見すること
も重要なものの一つです。

社会の価値観も大きく変わろうとしています。

物質的な豊かさよりも、心の充足や安心を求める人が
多くなってきました。そうした時代の転換期に、
千葉県での障害者文化芸術を深め、
盛り上げていく母体を作ろうということになりました。

それが、「うみのもり」です。
あの日、心の中で鳴った風鈴の音に導かれるようにして、
わたしたちはここにいます。

(文・野澤 和弘 うみのもり特別顧問・植草学園大学副学長)

活動

相談対応

絵画、舞台、音楽など障害者の文化芸術活動に
関する多様な質問を、相談フォームや電話、FAX等
から受け付けております。
また、県内巡回展の期間中には「出張相談会」も
行っております。

相談フォーム



例えば、
こんな質問やご相談...!?

アート活動を実施している事業所を
紹介して欲しい。

障害のある子どもたちに
適した画材を知りたい。

商業施設、公共施設で
障害者アート展を行いたい。

展示に際しての額装の仕方を
教えて欲しい。

絵を販売することで収入を増やしたい。
アドバイスが欲しい。

事業所でアート活動
をはじめたい。

人材の育成等の研修会の開催

障害のある方々による創作活動・表現活動を支援している方々、
これから施設・事業所で活動を始めたいと考えている方々、
興味のある方々を対象に、人材育成を目的とした講座を開催しています。
障害のある方々による創作活動・表現活動への理解の向上、
作品の質の向上、作品・作家の権利の保護などを題材に学びます。



令和6年度「人材育成講座」植草学園大学にて開催の様子



令和6年度「人材育成講座」千葉県東総文化会館にて開催の様子

発表等の機会の創出

千葉県内の作家により生み出された作品が、多くの方の目に触れて
いただけるよう、千葉県立美術館で公募展「うみのもりの玉手箱」を
毎年開催しております。
また、受賞作品については、千葉県庁ほか千葉県内数カ所を巡回
する「うみのもりの巡回展」での展示も行っております。



令和6年度「公募展 うみのもりの玉手箱4」千葉県立美術館にて開催の様子



令和6年度「うみのもりの巡回展」千葉県庁、稲浜ショップにて開催の様子

ネットワークの構築

千葉県内で「活動している人」と「活動の場」、芸術
活動に取り組んでいる福祉事業所・公共施設、
障害者芸術文化活動普及支援事業広域センター
などをつなぐネットワークづくりを行っています。
また、県内の作家の登録・紹介も受け付けております。

ご登録・ご紹介登録フォーム



令和6年度「うみのもりの玉手箱4」での
中村順二美術館作品展

千葉県、南関東・甲信障害者
アートサポートセンター主催トークイベント
「つくり・つたえる・つながるサミット」

情報収集、発信

県内の障害のある人による文化芸術活動への参加
や活動内容の充実を目指し、活動に関する様々な
情報を収集しています。
また、情報提供を希望される方には、メーリング
リストによりご案内しております。

送付登録フォーム

